

研究課題

主体的に学び、「わかる・できる」喜びを 実感できる授業づくり

副題

～大一小スタイルの開発～

キーワード

ICT活用・アクティブラーニング・情報モラル・授業スタイル開発

学校名

千葉県柏市立大津ケ丘第一小学校

所在地

〒277-0921
千葉県柏市大津ケ丘3-50

ホームページ
アドレス

<http://www.otsu1-e.kashiwa.ed.jp/>

1. 研究の背景

本校は、2015・2106年度の2年間パナソニックワンダースクールとして活動してきた。それ以前は、国語の研究の取り組みを長年行ってきた。その結果、単元を貫く言語活動については定着が見られ、見通しを持って学習を進められるようになってきている。並行読書も日常的に行い、単元に関連したジャンルから読書の幅を広げられるようになってきた。また、今年度は柏市のICT活用指定校になり、主体的に学び、「わかる・できる」喜びを実感できる授業づくり・ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫を主題として研究を進めてきた。ICT活用と学校図書館の活用が柏市の重点政策になっていることから、本校の研究が注目を集めているところでもある。

前年度は、ICT活用を含めた授業の形作りと基礎学力の向上を目指してきた。本校の活用の中で、動画による学習問題作りや授業中に児童のノートを電子黒板に提示し、比較検討する等の使用スタイルが形成され始めた。しかし、教員の異動に伴い、ICT活用のレベルに差がある。

実際の本校のICT活用に関し目を向けると、校内でも積極的な研修会が開かれているが、ICT活用のファシリテーターをできる教員、自ら研修会に参加したり提案したりする教員、使い方に自信のない教員がいたりレベルは様々である。また、学級によってもICT活用の差が大きい。この現状を打破すべく、誰もがICTを効果的に使える「授業のスタンダード」を作る必要があり、実践を行うこととした。

2. 研究の目的

教員のICT活用レベルに関係なく、『主体的に学び、「わかる・できる」喜びを実感できる授業づくり・ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫』という本校の研究主題を達成するために、ICTや学校図書館活用の「スタンダード」を作ることを目的とし、研究を行うことにした。

そこで、前年度までの授業実践の中から効果的なものを厳選し、「大一小スタイル」を作り、教員研修と授業実践を行うことで、教員のICT活用のレベルは上がると考える。その結果、研究主題に迫るだけでなく、児童が自らICTを活用するという状況になると考え、本研究を行った。

3. 研究の経過

(1) 実践方法

実践を行うにあたり、前年度の実践を基に考えた、5つの方法を「大一小スタイル」とした。

- ①動画による学習問題作り
- ②タブレットやシンキングツールを組み合わせた協働学習
- ③様々な機器を活用した比較検討
- ④近隣学校・施設との連携授業
- ⑤家庭学習との連動・放課後子ども教室

この中のどれかを日々の授業の中に入れることにした。そのようにすることで、どのレベルにいる教員でも自信をもってICTを活用しているといえるのでは中と考えた。さらに、本校の校内授業研究では、一人一授業を行っている。そこで、使うことができているか授業実践を行う。また、ICT活用のファシリテーター役の教員が研修や授業実践で様々な方法を伝え、指針を示すことでICT活用に苦手意識を持つ教員が、「挑戦してみようかな。」と思えるようにし、実践を増やすこととした。

(2) 評価方法

評価方法は以下の2つとし、実践を行った。

- ①教員の意識調査
柏市のICT活用能力の調査を比較する。
- ②児童の学習に対する調査
4月と12月の児童の学習に対するアンケートによる比較を行う。
- ③学力調査
・大一小スタイルを行ったクラスと行っていないクラスのワークテストの結果を比較する。

(3) 実践計画

A：校内研究授業(国語・算数 全3回)

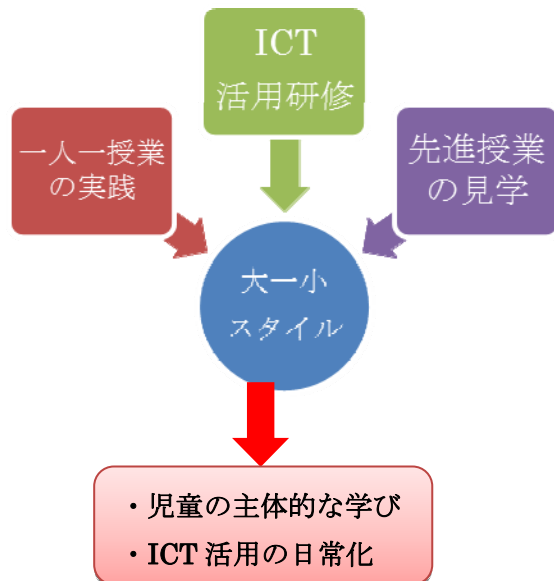
講師：柏市教育委員会学校教育課 佐和 伸明統括リーダー
柏市教育委員会指導課 岩田 将英指導主事

B：ICT活用研修

- ・デジタル教科書・One Noteの使い方
講師：前田 ICT教育支援員アドバイザー
- ・ロイロノート・シンキングツールの使い方
- ・NHK for schoolの使い方 講師：井上教諭
- ・コラボノートの使い方 講師：JR 四国

C：先進授業公開

- ・社会科授業実践公開
- ・算数授業実践公開
- ・プログラミング授業公開
- ・情報モラル授業公開
- ・初任者等への授業公開



4. 授業実践

上記3(3)を本校では、以下のように行った。

期 日	形 態	大一小 スタイル	内 容	ICT 機器や キーワード
4.25	B		平成 28 年度研修計画	
6.23	A	②③	4 年 1 組 国語「写真をもとに話そう」	・タブレット PC ・コラボノート
		①③	6 年 1 組 算数「角柱と円柱の体積」	・ぼうけんくん
6.29	C	①② ③	遠藤教諭<第 3 回初任者研修講師> 国語 「写真をもとに話そう」	・ぼうけんくん ・コラボノート
6.30	B		・デジタル教科書・One note の効果的な使い方 講師 前田 ICT 教育支援アドバイザー ・NHK for school の使い方 講師 井上教諭	
7.11	C	①② ③④	5 年 1 組 井上教諭 NHK・琉球大学連携授業 社会・総合的な学習の時間 「沖縄の人たちだからこそ知っていることを聞き出 す質問を考えよう」 「沖縄の人にインタビューし、沖縄県を PR する CM にまとめよう」 NHK for school 「しまった・未来広告ジャパン」	・タブレット PC ・Skype ・NHK for school
8.19	B		ユニバーサルデザイン研修 講師 柏市教育委員会指導課 岩田 将英指導主事	
10.4	A	③	あおぞら・そよかぜ学級 行事単元・教科領域 「お楽しみ会や合同運動会を成功させよう」	・ぼうけんくん
10.12	C	①② ③④ ⑤	視聴覚放送教育全国大会提案のための授業公開 5 年 1 組 井上教諭 小高連携授業 「大一小のスマホのルールを作ろう！」 柏市立柏高等学校とスカイプを繋ぎ、連携学習を行っ た情報モラルの授業	・iPad・Skype ・ピラミッドチャート ・反転学習 ・NHK for school ・小高連携
10.24	A	③	2 年 2 組 算数「長方形と正方形 形をしらべよう」	・ぼうけんくん
		①② ③⑤	5 年 1 組 国語「資料を工夫して効果的に発表しよう」 「来年の 1 年生に学校を紹介するプレゼンテーショ ンを作ろう」	・iPad ・ロイロノート ・反転学習 ・ピラミッドチャート
11.3	B		・ロイロノートの使い方 講師 前田 ICT 教育支援アドバイザー・井上教諭	

11.9	A	①② ③	井上教諭（社会・総合的な学習の時間） 「未来の食料自給率を上げよう」 <5年経験者研修授業>	・ピラミッドチャート ・iPad ・NHK for school
11.11	A	③	4年2組 算数「計算のきまり」	・ぼうけんくん
11.21	A	①② ③	1年1組 国語「けんかした山」	・ぼうけんくん ・iPad
		③	3年1組 算数「はしたの大きさのあらし方を考えよう～分数を使って～」	・ぼうけんくん
12.2	A	②③	6年2組 国語「一年生に向けて物語を書こう」	・iPad ・イメージマップ
1.16	A	③	1年2組 算数「おおきいかず」	・ぼうけんくん
1.17	A		5年2組 算数「図形の角」	・ぼうけんくん
1.20	C	②③	鈴木教諭 6年 体育「ソフトバレーボール」	・iPad
	C	②③ ⑤	千葉県教育研究会視聴覚情報部会 公開授業 井上教諭 5年 算数「立方体の展開図」	・iPad ・一人一台
1.24	A	①③	2年1組 国語 「おもちゃ大会」をひらこう	・iPad
1.25	A	③	3年2組 国語 「町の行事について調べよう」	・ぼうけんくん ・iPad
1.26	A	②③	5年1組 音楽 ・声による世界の国々の音楽 ・「子もり歌」・音階の音で旋律づくり・「春の海」	・iPad ・ロイロノート ・ベン図
2.16	B		研修全体会「今年度の研修のまとめ」	

今年度、数多くの実践が行われた。また、上記以外にも、日々の授業や委員会活動・部活動などでもiPadやぼうけんくん等が使用された。また、子どもが進んで、iPadを借りにくる姿が見られた。



5. 代表的な実践

(1) 6年 算数「角柱と円柱の体積」 ①③を使用
複雑な形のカステラをどのようにしたら、求めることができるかという導入の動画を作成し、見せた。児童は、手元の模型とデジタルコンテンツを比較しながら、問題に取り組んだ。自分の担任が出てくる動画を見ることで、児童は興味を持ち、学習に取り組むことができた。また、問題把握もスムーズに行うことができた。



(2) 1年 国語 「ケンカした山」①②③

導入で、教師が下手な音読の仕方を披露し、その改善点を探し、振り返りながら音読をした。その後、音読劇に繋げる学習を行った。また、児童の練習の様子を iPad に映すことで、自己を振り返ることができていた。

導入の動画や iPad の動画で振り返るなど、児童の意欲を高めることができていた。



(3) 5年 社会・総合的な学習の時間 「あたたかい土地の暮らし」 ①②③④

「本当の沖縄を PR して欲しい。」という琉球大学の学生からの依頼を受け、NHK for school の動画や資料から学んだことを、Skype を使いインタビューした。その際、現地の人が本当に好きなことを聞き出し、ロイロノートを使い CM にまとめた。学習に課題意識を持つことができ、主体的な学習になっていた。



(4) 5年 道徳・総合的な学習の時間 「大一小のスマホのルールを作ろう！」 ①②③④⑤

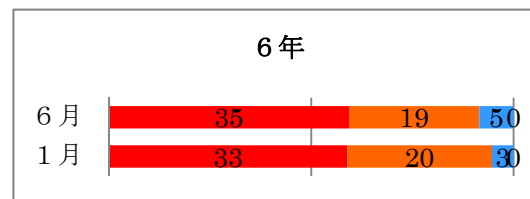
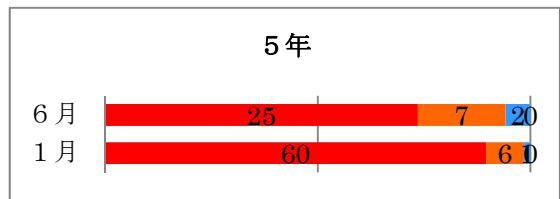
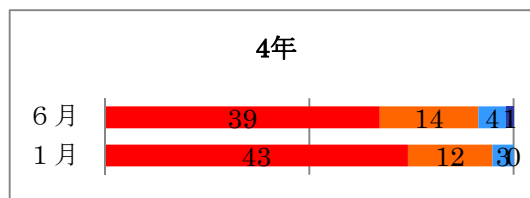
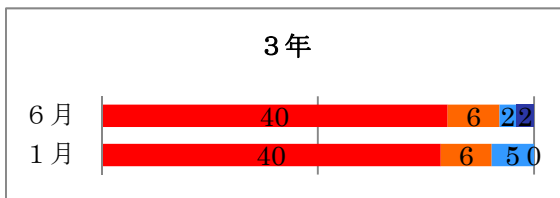
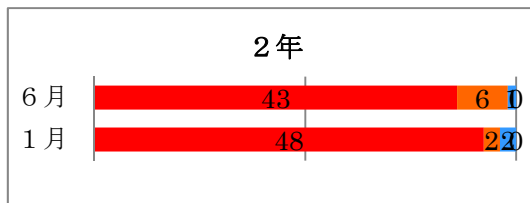
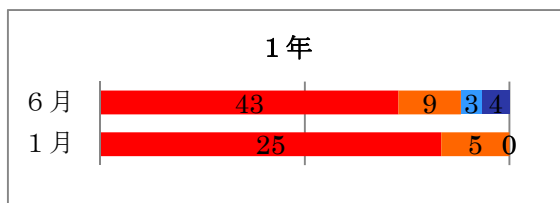
学校から、「大一小のスマホのルールを作ってほしい」という依頼を受け、NHK for school の動画や近隣高校への Skype を使ったインタビューを通し、ルールを完成させた。Skype をすることで、児童だけではイメージしづらいことも話を聞くことで自分のものにできていた。



6. 研究の成果

(1) 児童の評価

ICTを使った国語や算数の学習は好きですか。

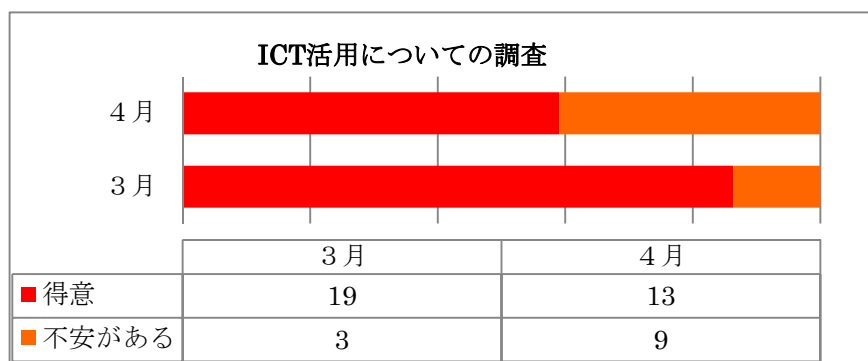


どの学年を見ても大きな変化はないが、わずかながら「好き・まあまあ好き」という回答が減少傾向にある。これは、昨年度まで「お楽しみ」、つまり「非日常」の学習であったものが、「日常」へと変わりつつあることの表れではないだろうか。

また、「好き・まあまあ好き」という肯定的な意見が9割を超える回答であることは、児童が意欲を持って学習に臨んでいると言えるであろう。

(2) 教員の評価

ICTを授業で使うことについてどう思いますか。



4月に比べ、本校のICTに関わる調査では、自信を持ち使うことができるという回答が多くなっていた。柏市の調査でもICTの活用能力に関する質問項目が全て上昇していた。先生方が自信をもって、ICTを活用できるようになったと考えられる。

(3) ワークテストの変化

5年「あたたかい土地のくらし」	知識	思考	技能
5年1組(大一小スタイルあり)	47	44	44
5年2組(大一小スタイルなし)	42	35	40

各クラスの平均点にあまり差は今まで無かった。今回は、大一小スタイルを行ったクラスの方が全ての項目で点数が高い結果となった。

7. 今後の課題・展望

評価に関して(3)はあまりできていなく、有意差を測るにはデータが少なかった。来年度4月実施予定の柏市の学力状況調査の結果等を考察したい。

また、大一小スタイルによって、ICT活用表ができ、本校でもICTを活用した取り組みがますます行われている。しかし、ただ大一小スタイルを取り入れると、児童が主体的に学習に参加できるようになるかというところでもない。教師の課題への投げかけや学習規律があつてこそ大一小スタイルは効果を増すと考える。再来年度、本校は「魅力ある学校作り」という柏市での公開授業がある。そこで、今年度取り組んだ大一小スタイルに学習規律やアクティブラーニング、プログラミング教育などを組み合わせ、柏市や千葉県をリードする教育を行っていききたいと考えている。

8. おわりに

児童にとっても、教師にとっても有効な大一小スタイルを考えてきた。その結果、本校の研究主題である主体的な学びに児童だけでなく教師も迫ることができたのではないかと考える。まだ、課題も多く残るが、引き続き検証を行っていききたい。

本研究を行うことができたのは、パナソニック教育財団をはじめとする、本校とかがわっていただいた皆様のおかげである。そのことに感謝の意を表したい。